

- 平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
- 医療水準の向上を目指すとともに、我が国の経済成長につながる研究開発の成果が創出できるよう、基礎研究を安定的・継続的に支援するとともに、その成果が絶え間なく企業導出される仕組みの構築を目指す。

主要施策の進捗状況

- AMEDによる支援を中心に、基礎から実用化まで一貫として、医療分野の研究開発を推進した。
- ムーンショット型研究開発事業の目標7は、健康寿命を延伸し平均寿命との差を短縮することを目指し、「慢性炎症の制御」を軸に、多様な切り口から加齢に伴う疾患克服に向けた研究開発を進めており、基礎研究において多くの成果を創出した。プログラムの5年目評価も実施し、ポートフォリオの最適化も図った。
- 優れた研究シーズを実用化に向けて加速させるため、AMEDの各事業間を切れ目なく支援するための仕組み（ペアリング・マッチング）を導入した。
- AMEDは日本製薬工業協会と連携協定を締結し、革新的新薬の創出を戦略的に推進するための取組（AND-E）を新たに開始した。
- アウトプット指標の「治験に至った件数」や「優れたシーズの発展・継続支援件数」が目標値を上回ったことは、実用化を見据えた研究支援が着実に進展している結果と考える。

KPIの達成状況を図るアウトプット指標

- 権利譲渡契約・実施許諾契約・共同研究開発契約件数（シーズの企業導出件数※¹）
目標値：（130 件／年）（2025～2029 年度累計 650 件）
2025年度：158 件
- 治験に至った件数
AMED 支援による研究成果を活用して治験へ移行した課題、又は AMED 支援により治験を実施した課題。
目標値：（60 件／年）（2025～2029 年度累計 300 件）
2025年度：111 件
- 優れたシーズの発展・継続支援件数
AMED 内の事業間の連続的支援数。同一事業内での課題の受け渡しも含む。
目標値：（120 件／年）（2025～2029 年度累計 600 件）
2025年度：166 件
- 医療研究分野の論文数※²（Top1%論文）
目標値：（120 件／年）（2025～2029 年累計 600 件）
2025年度：86 件
- 医療研究分野の論文数※²（Top10%論文）
目標値：（850 件／年）（2025～2029 年累計 4,250 件）
2025年度：599 件
- 医療研究分野の全論文数※²
2025年度：5,585 件

※¹ AMED支援による研究シーズの企業導出件数を計数している

※² AMED支援による研究成果の論文掲載数を「医療研究分野の論文数」として計数している

日本医療研究開発機構（AMED）第3期の運営方針（令和8年1月）

～ 現場中心主義（研究現場や成果導出先との対話を基礎とする組織体制/風土の形成）の推進 ～



「現場中心主義」を徹底しつつ、以下の取組を通して、**研究開発とその環境整備及び人材育成等を牽引・後押し**することにより、健康・医療分野における**我が国の研究開発活動の活性化や底上げ、ひいては健康長寿社会の実現に向けて貢献**する。

1. 事業間連携の取組の強化

研究開発事業及び課題の間をつなぎ、切れ目なく連続した支援を可能とする仕組み（ペアリング、マッチング）を構築・導入する。その際、研究開発の目利きをはじめ出口戦略の立案やそれら実施に向けた案件調整等に取り組むシンクタンクの機能と機動性を向上させた調整費を有効に活用し、研究支援を充実させていく。

2. 研究開発の初期段階からの産学協創・企業導出

上記の研究支援の充実を図りつつ、初期段階からアカデミアと企業が協創して研究開発を進め、企業の視点による各シーズ・技術への支援等を実施することにより、最適な開発段階（基礎・応用研究から臨床研究まで）での企業導出を促進する。
革新的新薬の創製に向けて、各事業及び課題についてバリューチェーンの観点からも捉えながら、仕組みづくりや各段階の取組を進める。

3. 社会実装・貢献へつながる成果創出のための基礎研究の充実

研究者の自由な発想と社会的な要請を踏まえた基礎研究を継続的・安定的に支援し、また、その基礎研究の成果と先端的技術開発との融合を図ることにより、医薬品及び医療機器等の開発の源泉となるイノベーションの種を絶え間なく創出していく。

4. 国際展開の推進

国際的に優れた研究成果の創出に向け、国際共同研究の戦略的・機動的な推進や海外ニーズを取り込んだ国際共同治験への参画により、日本人研究者の国際的なトップサークルへの参入を促進するとともに、次世代の優秀な研究者同士の交流や関係構築の強化をする。また、国内外の医薬品市場を見据えた創薬エコシステムを構築する。

5. 医療分野の研究開発のDX

AIをはじめ、生成AIや量子技術等の先端技術を用いた医療分野の効果的・効率的な研究開発を促進する。そうした取組において基盤となるデータベースの構築・整備及び活用を見据えたデータマネジメントに取り組む。

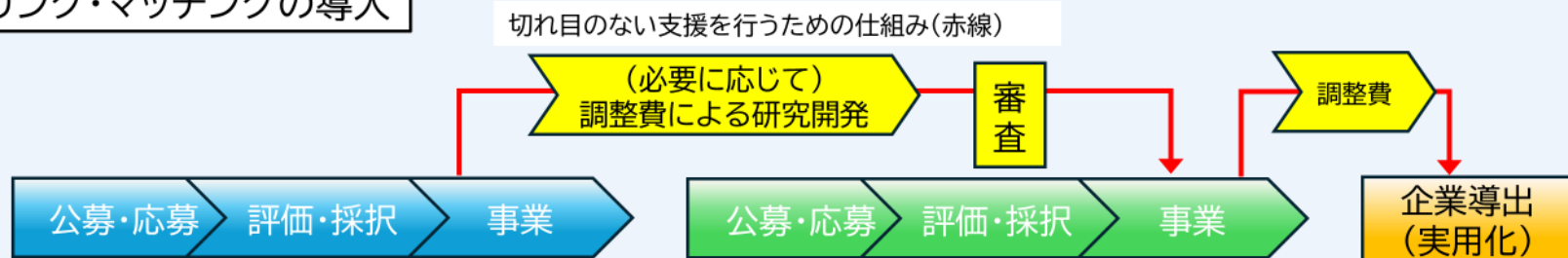


AMED 第3期の運営方針 1、2の取組(例)

事業間連携及び企業導出に向けた新たな仕組みの導入

- ペアリングを行うがん領域先行事業の令和7年度公募要領に、事業間の連続的支援や企業導出の仕組みを導入することを明記した。令和8年度公募要領の雛型に導入の目的や記載要領を明記してペアリング・マッチングの制度を導入可能に
- 一部事業が先行的にペアリング・マッチングを導入しており、運用にあたっての詳細な制度設計を進めているところ

ペアリング・マッチングの導入



ペアリング：あらかじめ連続的支援の対象となる対象事業（先行事業と後継事業）を設定した上で、先行事業の採択時にペアリング対象課題として選定する。当該課題を後継事業へ連続的に支援するにあたっては、AMED内のペアリング審査により後継事業への連続的支援の可否判断を行う。

マッチング：あらかじめ連続的支援の対象となる対象事業を設定せず、AMEDの支援を受けている課題（先行事業）からの連続的支援に適した事業をマッチング候補事業（後継事業）として選定する。当該課題を後継事業に繋げるにあたっては、AMED内のマッチング審査により後継事業への連続的支援の可否判断を行う。

上記の他、AMEDにおいて、以下の支援の強化をあわせて行う。

- ・ 情報収集・分析(研究動向・ニーズ・インパクトの分析・調査、成功・失敗要因分析、情報収集ネットワークの構築)
- ・ 出口戦略立案の強化
- ・ 事業や担当部局の壁を越えた横断的マネジメントや実用化にむけた伴走支援の強化



AMED 第3期の運営方針 1、2、3の取組(例)

AMEDの革新的新薬創製に向けた体制・ノウハウ強化

背景

【AMEDの体制・ノウハウ強化】

- 有望なシーズを見出し、必要な伴走支援を行い、実用化を加速化するため、政府・AMEDが一体となって、個別企業や製薬協等へ働きかけ、優秀な人材を出向者として受け入れるとともに、AMEDにおいてもプロパー職員を配置してペアリング・マッチング実施体制を整備し、外部の知見の活用と人材育成を一体的に取り組んでいくことが重要。その際、適切なマイルストーン設定の在り方、取るべきデータやタイミング、知財確保で考慮すべき事項等について可能な限りマニュアル化を推進。
- 同時に、切れ目ない支援やシーズの企業導出の促進のための取組を理事長の責任と裁量の下で適切に行えるよう、外部人材も活用して創薬等の研究開発の視点に特化した創薬の企画立案・調整等を行う総括戦略機能を整備し、上記のペアリング・マッチングの実施者と連携して事業間連携・企業導出の加速化を推進。

創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議中間とりまとめを踏まえた政策目標と工程表（令和6年7月、内閣官房健康・医療戦略室）より抜粋

AND-E (AMED IND ENGINE)

連携協定締結
(令和7年10月1日)



製薬協



AMED

相互に連携及び協力し、我が国の創薬エコシステム構築に貢献

- ・ 困難だが実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を対象とした野心的な目標及び構想を国が策定。目標の達成に向け、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発（ムーンショット）を推進。総合科学技術・イノベーション会議で定めたムーンショット目標とも連携しつつ、関係省庁が一体となって研究開発を推進。【健康・医療分野におけるムーンショット型研究開発事業】
- ・ 単独のアカデミアや企業では取り組みにくい研究開発領域について、複数年にわたる幅広い産学官連携を通じたオープンイノベーションにより、難病・希少疾病を含む医療上の必要性が高く特に緊要な医薬品、医療機器等の革新的な研究開発の実現を目指す。【革新的医療技術研究開発推進事業（産学官共同型）】

ムーンショット目標7：2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステナブルな医療・介護システムを実現

- 令和元年度補正（AIMGAINと合わせて100億円）、3年度補正（50億円）、5年度補正（365億円）により、AMEDに基金造成
- 計4回の公募並びに採択後3年目及び5年目の外部評価を経てポートフォリオの構築・見直しを行い、10の研究課題を推進
- 令和7年11月、健康・医療戦略推進本部において目標7の6年目以降の継続を決定
- 引き続きムーンショットらしい基礎研究を続けるとともに、成果の実用化・社会実装の取組を加速

革新的医療技術研究開発推進事業（産学官共同型）（AIMGAIN）

- 令和元年度補正（MSと合わせて100億円）、4年度補正80億円）、7年度補正（120億円）により、AMEDに基金造成
- 複数の大学等と複数企業の連携による共同研究を、企業が提供するリソースとAMED委託費を組み合わせ実施
- 計4回の公募及び中間評価による見直しを経て、14の研究課題を推進
- 令和7年度補正において、ドラッグラグ・ロスの解消に向け、難病・希少疾病を対象に、スタートアップ等が実施する日本を含む国際共同治験に必要な経費の一部をマイルストーン型で補助する「グローバルタイプ」を新設

